

■会議結果報告書■

会議の名称	令和6年度第3回札幌市子ども・子育て会議若者支援施設在り方検討部会
日時・場所	令和6年12月19日（木）9：30開会 大通バスセンタービル2号館2階 子ども未来局大会議室
出席委員 （6名/6名中）	永浦 拓（部会長）、荒木 奈美、岩崎 祥太、大澤 真平、金 昌震、工藤 真嗣 （敬称略）
傍聴者数	3名

議事	概要等
議題1：若者支援施設基礎調査の調査結果報告について	<事務局説明> 事務局より、以下の資料について報告。 ○資料1：若者支援施設基礎調査の概要について ○資料2：施設利用者アンケートの調査結果について（報告） ○資料3：支援者・当事者へのヒアリング調査の結果について（報告） ○資料4：基礎調査で把握された現状と課題等（主なもの） ○資料5：他都市事例調査の調査結果について（報告） <主な質問及び意見> （委員） 資料2中、年齢、時間、回答数などの表記が、統一されていない箇所や、分かりづらい箇所があるので、（可能な範囲で）修正した方がよい。 （事務局） 指摘を踏まえ、次回までに修正したい。 （委員） 資料2の21ページ「施設に求める機能」について、今現在求めている機能を聞いた設問なのか、それとも、これから求められる機能を聞いた設問なのか。 （事務局） これから求められる機能の把握を目的とした設問である。 （委員） 若者世代の状況をより詳細に把握する必要がある。居住形態×年齢、職業×年齢のクロス集計をお願いしたい。 （委員） 資料5の他都市事例調査について、札幌市のように施設を複数持っている自治体はどこか。 （事務局） 京都市、神戸市は施設を複数持っていて、京都市は札幌市と非常に近い形態であった。 （委員） 資料2の21ページ「施設に求める機能」について、この回答は利用者本人からだけなのか、保護者も含まれているのか。 （事務局） 正確には分からないが、利用者からの回答が大半であると推測できる。 （委員）

	資料2の18、19ページの相談支援・イベントに関するアンケート結果について、交流イベントとボランティア活動では、参加意思や参加後の気持ちの変化が少し違うと思う。交流イベントとボランティア活動で分けて分析することは可能か。 (事務局) 今回のアンケートは、2つを分けて、集計・分析できるような設計をしていないため、そのような分析は難しい。 (委員) 資料5の34ページの説明であった文化芸術とは何を指すのか。サブカルチャー的なものも芸術と含むのか、文化と芸術は分けて考えているのか、そのあたりを伺いたい。 (事務局) 京都市では文化芸術やものづくりを大事にしている、東山青少年活動センターは若者センターというよりは伝統文化、伝統工芸品を継承していくような拠点であった。この説明文は、特定分野に特化しすぎると、特定目的を持った方ばかりが集まる施設になるということを説明する趣旨で記載したもの。 (委員) アンケートについて、性別、職業、年齢×施設に求める機能のクロス集計、滞在時間×スタッフとのかかわり、施設に求める機能のクロス集計をしていただきたい。 (委員) ロビーの滞在時間と福祉的な支援はつながっている可能性があるため、重要な要素ではないかと思う。
議題2：基礎調査で把握された課題等を踏まえた討議・意見聴取事項について	(1) 次回以降、事前に討議・意見聴取事項を設定のうえ、審議を進めることを決定。 (2) 事務局から提案のあった、次の資料の5項目を討議・意見聴取事項とすることを決定。委員からも追加提案がある場合は、令和6年中に事務局まで連絡することとされた。 ○資料6：基礎調査で把握された課題等を踏まえた討議・意見聴取事項（案）
議題3：今後の進め方について	・ 事務局から提案のあった原案（次の資料）に沿って進めていくことを決定。 ○資料7：今後の進め方について（案）